

館の使命	現代産業科学館は、科学技術の調和ある発展と、人類社会の未来の可能性を信じて様々な活動を展開し、幅広い県民の集う博物館を目指します。			
評価項目	7 展示 ②企画展示(入場料の変更が必要な展示) 企画展「生物のデザインに学ぶ—未来をひらくバイオメティクス—」			
項目概要	使命に則した事業であるか。			
評価項目	視点例	目標・指標	実績・内容	所見・指摘事項
①事業目的	・本事業の目的、企画の狙い等は、館の使命及び県民ニーズに照らし適切に設定されているか。	・科学技術をわかりやすく伝える。	・新しい分野の技術として、産業界からも注目されている「バイオメティクス」について実物を多く配置し、身近にその技術を感じてもらえる構成とした。就学前から小学校低学年の児童には、はっ水体験やぬりえ等の体験により観察力を養うコーナーを設けた。また、解説文を子どもたちにも見やすい位置に配置し、各年齢層に対応できるように工夫して、紹介した。	【石川】 広い年代層に関心を持たれる斬新な企画で、館の存在価値を高める事業と評価する。 【黒田】 生活に身近なものでありながら、一般的にはあまり知られていない技術について、県民に分かりやすく発信しようとする好企画だと思います。
		・広く科学技術に興味・関心を高める。	・(公社) 高分子学会を含め、国内第一線級の研究者や県内大学からの協力を得て、高いレベルでの内容を分かりやすく展示することができた。	【黒田】 全年齢への配慮が展示・関連イベントにうかがえた。
		・幅広い年齢層に理解してもらえたか。		
②事業内容	・目的・ねらいを正しく反映する工夫がなされているか。	・「バイオメティクス」について興味と関心を喚起する展示がなされている。	・4つの展示構成のうち、最初の導入部分を企画展示室の外に設置し、クイズ形式の展示により子どもたちにも興味と関心を持ってもらえる配置にした。	【石川】 一般的に統一性のある展示説明に好感。
		・代表的な「バイオメティクス」による製品について、着想を得た生物の機能やしくみの説明とともにわかりやすく展示されている。	・微細技術を視覚だけでなく、個々の持つ機能性を知るための体験を交えた展示とした。	【石川】 子どもにも理解可能な丁寧な解説であったが、年代によってはもう少し高度な解説が欲しいかもしれない。 【黒田】 実物を見ながら解説を見ることで、目に見えない「技術」を目にすることができる。
		・展示空間や資料に応じた展示手法等を工夫している。	・展示室内のデザインを統一し、個々の資料の左側に「紹介」、右側に「解説」とし、内容も短いセンテンスで表現した。	【黒田】 展示デザインでの統一が全体の一体感を出しており、とても見やすかった。
		・企画展に関連した教育普及活動(講演会・ワークショップ)が行われている。	・展示内容に親しみを持てるように、パンフレットをB5変形版で見開きによるクイズ形式で作成し、子どもたちにも興味を持って見学できるように工夫した。	【石川】 2ツ折パンフレットのできばえも良く、工夫され、最良である。
		・幅広い年齢層が楽しめるよう企画全体がコーディネートされている。	・未来を担う子どもたちに向けた本企画展オリジナルの「夢と希望を持ち『生きる力』をはぐくむ研究者からのメッセージ」を制作し、館内で放映した。	【石川】 一つ一つが優良なテーマで、企画展のみで終わりのなはもったいない。 【黒田】 全年齢への配慮が展示・関連イベントにうかがえた。
			・バイオメティクスを取り扱う国内第一線級の研究者による講演会や子どもにも分かりやすいテーマのワークショップを企画し、研究者とも直接触れ合える内容とした。13項目20回の実施。	

評価項目	視点例	目標・指標	実績・内容	所見・指摘事項
③満足度	・入場者は、満足したか。	・1日平均有料入場者数を平成24年度実績(37.36人)の10%の増加	(H25特別展のためH24との比較とした) ・1日平均入場者数 H24 147.8人 H26 225.9人 (52.8%増) ・1日平均有料入場者数 H24 37.36人 H26 62.77人 (68.0%増)	【黒田】 著しい入館者数の増加、アンケートの満足度の高さは、企画が広く受け入れられたこと、広報、展示手法での努力工夫が結実した結果であると思います。
		・出口アンケート調査での「とてもおもしろかった」「おもしろかった」の回答数が80%以上。	・「とてもおもしろかった」73.3 % ・「おもしろかった」23.3 % 計96.6%	【石川】 満足度も高く多めに評価する。
④運営	・全職員の創意と能力を活かすとともに外部と協働した運営がなされていたか。	・入場者数増のための新しい取り組みがなされている。	・国内第一線級の研究者による講演会・ワークショップを開催し、技術だけでなく研究者からの「メッセージ」も伝えるように構成した。	【石川】 厳しい予算での企画展示がどの程度理解されているか。
			・年間を通して、体験プログラムの実験参加者に対し、スタンプラリーを実施。スタンプが5つたまると表彰する仕組みを作った。	【黒田】 館長以下全職員が一丸となって努力されているさまが、うかがえた。リピーターの獲得の試みが成功しており、特に表彰される子どもたちが嬉しそうな様子がうかがえた。
			・来館者の興味・関心をひくため、昨年度人気のあった入場ゲート等を再利用したり、床面に手作りのシール状の造作物を張り付けたり、大型の吊り下げバナーを製作したり、博物館が一丸となって、会場の雰囲気を盛り上げる取り組みを行った。	【石川】 広い年代層に合致した広報であったか。(時期や方法によっては、もっと良い結果を期待できたのではないか) 【黒田】 館外のポスター展示からインパクトがあり、館入口から展示入口までへの誘導に統一感があってよかった。
			・会期前から関連資料の展示、大型モニターを使用した関連資料や研究者の紹介映像などを紹介し、早い段階から企画展情報を発信した。	
		・幅広い年齢層向けにイベント等を企画し、円滑に実施されている。	(公社)日本顕微鏡学会、(公社)高分子学会、文部科学省科学研究費新学術領域「生物規範工学」との共催により 体験実習 4日間 8回 講演会 2日間 6項目 ワークショップ 4日間 3項目 6回 実演 1日間 3回 工作教室 1日間 2回	
		・地域ボランティアが参画し、職員とともに役割を理解して活動している。	・県内の大学と連携し、4名の学生ボランティアが参加している。	
			絵画展(期間中) 千葉県少年少女発明クラブ絵画展 後援:(一社)千葉県発明協会 千葉県立現代産業科学館展示・運営協力会主催により 開館20周年記念講演会 「さかなクンのギョギョッとびっくりお魚のヒミツ」	

評価項目	視点例	目標・指標	実績・内容	所見・指摘事項
④運営	・全職員の創意と能力を活かすとともに外部と協働した運営がなされていたか。	・企業、他の教育機関等との連携・協力関係が得られている。	・協賛 (公社)高分子学会、文部科学省科学研究費新学術領域「生物規範工学」	【石川】 エコカーについて、館の関与が少なく感じた。
			・協力・指導 千歳科学技術大学教授 下村政嗣氏、(合)地球村研究室代表社員 石田秀輝氏	【黒田】 外部団体との連携が、展示、イベントのどちらでも成功しており、効率的に両者が動いていることがうかがえた。
			・協力 (公社)日本顕微鏡学会、千葉県立現代産業科学館 展示・運営協力会ほか	
			・資料・画像・イベント協力 企業 19社 高校・大学 10校 法人 6法人 博物館 4館 個人 2名	
		・外部助成を受けている。	・(一財)全国科学博物館振興財団の全国科学博物館活動等助成事業を受け、千葉大学工学部協力のもと、「ハチドリ羽ばたき実験装置」を製作した。	【黒田】 外部助成を効果的に使用できていると感じた。
			・千葉県立現代産業科学館 展示・運営協力会の協賛により、講演会「さかなクンのギョギョッとびっくりお魚のヒミツ」を実施した。	
		・本事業の狙いや過去の広報実績を踏まえ、効果的な広報活動を行っている。	・広報用のポスター枚数を増やし、博物館や研究団体にも配布した。	
			・「顔の見える広報」を実施するため、直接施設(学校や団体)を訪問して企画展を紹介、PRに努めた。	【黒田】 アンケートの詳細な分析を行い、学校団体への訪問などが、どのような効果を発揮したのかを明らかにし、今後の広報活動へ生かしてほしい。
			・展示見学による学習効果の高い大学・高校に集中的にPRを行った。	
			・県内だけでなく、都内を含む近隣市町村にも情報提供を行った。	
・答えやすいよう工夫を凝らしたアンケート調査が実施されている。	・子どもたちの感想やメッセージを花びら型の用紙に記入して、会場内に掲示する来館者参加型のコーナーを設置した。	【黒田】 直接的に意見を収集できる場の工夫としてよかったと思う。		

総合評価	
段階評価	所見・指摘事項
4.0 (石川・黒田)	<p>【石川】 ・広い年代層に関心の持たれる優れた企画で顧客満足度も高く成果があった。パンフレット等新しい面も館全体の意欲の結集を評価できる。テーマ的にも、継続企画されても良いのではないかとさえ考える。</p> <p>【黒田】 ・現代産業科学館としての使命を十全に打ち出した好企画であり、かつ入館者の満足度も高く、入館者も顕著に増加した点でも職員の方々の努力を称えたい。 ・成功した事業の展示、広報などのノウハウが、他の企画や事業においても、館として継承できるような体制づくりとその維持を行っていくことが重要になってくると思います。 ・これだけの来館者を集められるのですから、ミュージアムショップにおいても、企画展や常設展に合わせた意識的な商品陳列や営業時間の充実などを行ってほしいと思います。</p>

評価の判定基準 4:高く評価できる 3:評価できる 2:部分的に見直しが必要 1:全面的に見直すべき

対応
<p>本展示においては子供たちにも分かり易い解説を心がけ、イベントにおいては国内を代表する研究者による講演を実施し、専門的な質問にも対応できる企画とすることができた。展示とともに、イベントも一体化させ、多くの層の来館者に対応できるものとした。また、本企画展で人気のあった展示の一部については特設コーナーで継続して紹介している。</p> <p>来館者の動向については今年度増加傾向が見られたことから、来年度も引き続き顔の見える広報を展開し、意見を頂きながら改善し普及活動に努めたい。また、ミュージアムショップについては、運営方法を含め、運営者と対話をしながら決めていきたい。</p>